

特 集

胃癌治療ガイドライン 最新版を読み解く 改定のポイントとその背景

胃癌治療ガイドライン第5版が本年1月に発刊された。第4版出版以降、化学療法の分野を中心に数多くの臨床試験が決着したため大幅な改定となった。そこで、本特集号では第5版での改定内容を中心に解説するとともに、大きく改定されていない分野についても、その背景を含めて解説していただいた。大きな変更のない分野のうち最も注目される腹腔鏡下胃切除術の取り扱いについては、臨床試験としてのエビデンスは現在構築中であるため、ガイドラインでの取り扱いは慎重に進められているが、NCDデータの解析によりわが国全体での動向も明らかになっている。この点についても解説していただいた。

胃癌治療ガイドラインは最も歴史の長いガイドラインである分、最近のガイドライン作成マニュアルに則っていない側面もあるのが特徴である。また、一般論として、ガイドラインに書かれていることだけで日常臨床が完結するわけではない。この点も含めてご理解いただき、読者の皆様にはガイドラインの有効な活用には本特集をお役立ていただきたい。